

Title	電鉄グループのイメージ形成と戦略
Sub Title	
Author	青木良一(Aoki, Riyouchi) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1981
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001981-0117

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 青木良一

主査 小林規威 教授

副査 和田充夫 助教授

嶋口充輝 助教授

所属ゼミナール 和田充夫 研

電鉄グループのイメージ形成と戦略

本研究では、鉄道業を核として、多角化発展してきた3電鉄グループを取り上げ、グループのイメージ構造に最も影響を与えると思われる、居住地域や利用の程度の差がどのように人々のグループに対するイメージ構造に作用しているのかを実証的に検証してみた。

その結果、居住地域や利用の程度の差が大して、人々が持つグループのイメージ構造に隔差を生み出していないことがわかり、広く一般に認められたグループのイメージが存在しているといえることがわかった。

さらに、因子分析の結果からみられる各グループのイメージからグループのイメージは、人々からみたグループの過去から現在にわたる経営戦略の結果として存在する、現在の姿であると思われた。これらの結果から、グループが将来にわたって発展していくにあたり、グループイメージを戦略変数として活用するために、グループや各構成企業の長期的経営方針を考慮にいたったイメージ操作が必要であることがわかった。